

2024年12月6日

一般財団法人化学及血清療法研究所

—感染症、血液領域の研究活動を支援— 2024年度の研究助成対象者を決定しました

一般財団法人化学及血清療法研究所（理事長：馬場 秀夫、所在地 熊本市中央区）は、2024年度の研究助成対象者として、下記のとおり、3つの研究助成プログラムに対する申請計298件から24件を決定しましたので、お知らせいたします。当法人は、2020年度より、感染症領域及び血液領域の研究の発展に寄与することを目的に研究助成事業を実施しており、今年度を含め、研究助成実績は延べ95件、9億2,100万円となります。

各プログラムの「助成対象者一覧」、および選考委員長の「審査講評」は3頁目以降に記載しております。

記

【2024年度研究助成概要】

■化血研研究助成

感染症（人獣含む）領域及び血液領域において年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる日本の大学または公的研究機関等に所属する研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して研究助成する

助成金額：2,000万円（1,000万/年×2年間）/件

助成期間：2年

採択件数：6件（申請件数120件：採択率5.0%）

■化血研ステップアップ研究助成

次世代の研究者の育成に資するため、『化血研若手研究奨励助成』採択者の中から、助成を受けた研究テーマをさらに発展させたい研究者に対して研究助成する（2024年度は、2021年度及び2022年度『化血研若手研究奨励助成』採択者を対象とした）

助成金額：600万円（300万/年×2年間）/件

助成期間：2年

採択件数：3件（申請件数10件：採択率30.0%）

■化血研若手研究奨励助成

感染症（人獣含む）領域及び血液領域において45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募し、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究テーマを持った将来有望な若手研究者に対して研究助成する

助成金額：300万円（2年間300万円）/件

助成期間：2年

採択件数：15件（申請件数168件：採択率8.9%）

以上

財団概要

一般財団法人化学及血清療法研究所

・所在地：熊本県熊本市中央区花畑町4-7 朝日新聞第一生命ビル11F

・代表者名：理事長 馬場 秀夫

・事業内容：1. 生物学的製剤等に関する研究・調査、2. 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰、3. 医療技術者を養成する事業への協力・支援、4. 医療機関への協力・支援、5. 印刷物の刊行、6. 奨学金の支給、7. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援、8. 地球環境保全に関連する事業、9. その他当法人の目的達成上必要と認める事業

・財団サイト URL：<https://www.kaketsuken.org/>

お問い合わせ先

一般財団法人化学及血清療法研究所 企画調整室（広報担当）

[担当] 宮原

[TEL] 096-297-2152

[E-mail] information@kaketsuken.org

助成対象者一覧

■化血研研究助成 6件

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
青木 友浩	東京慈恵会医科大学 薬理学講座	教授	血流負荷感受機構である細胞膜物性の血管病の発症進展を促進する危険な変容様式の同定と細胞膜物性を標的とした革新的創薬の展開
岸川 淳一	京都工芸繊維大学 応用生物学系	准教授	リンゴ酸：キノン酸化還元酵素 MQO をターゲットにした広範な感染症治療効果を持つ新規薬剤シーズの創出
児玉 年央	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	ヒト組織由来腸管オルガノイドを用いた腸炎ビブリオの腸管病原性機構の解明
小松 紀子	東京科学大学 難治疾患研究所	教授	血球細胞を制御する間葉系細胞の病原性獲得機構の解明
指田 吾郎	熊本大学 国際先端医学研究機構	教授	感染記憶による血液がん発症の病態解明と治療法検証
朴 三用	横浜市立大学 生命医科学研究科	教授	B 型肝炎ウイルスの感染受容体による感染機構解明

■化血研ステップアップ研究助成 3件

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
遠藤 裕介	かずさ DNA 研究所 先端研究開発部	室長	脂質代謝を基軸とした次世代抗ウイルスシステムの PoC 確立
田久保 圭誉	東北大学 大学院医学系研究科	教授	加齢造血幹細胞および骨髄増殖性疾患に共通するミトコンドリアレジリエンスの誘導機構の解明と標的療法の検討
見市 文香	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	赤痢アメーバが産生する超長鎖ジヒドロセラミドの休眠化における機能解析

(化血研若手研究奨励助成対象者は次頁)

■化血研若手研究奨励助成 15 件

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
有井 潤	神戸大学 大学院医学研究科	准教授	血球におけるヘルペスウイルス持続感染 成立機構の解明
岡 泰由	名古屋大学 環境医学研究所	講師	DNA 修復システムの破綻により発症する 遺伝性骨髄不全症候群の病態解明
雁金 大樹	東京科学大学 血液内科	特任 准教授	セリン代謝による造血幹細胞維持機構の 解析
岸本 麻衣	大阪公立大学 大学院獣医学研究科	助教	ヒトに病原性のある新規ダニ媒介性ナイロ ウイルスの感染伝播機構の解明
木下 真直	山梨大学 大学院総合研究部	助教	Neutrophils extracellular traps を標的とした スティーブンス・ジョンソン症候群の治療 機序と新規薬剤の創出
佐伯 法学	愛媛大学先端研究院 先端研究高度支援室	准教授	敗血症におけるマクロファージと骨格筋 組織のミトコンドリア移送
福島 剛	東京大学 医科学研究所	特任 研究員	造血幹細胞の運命制御分子ネットワークの 機能的解析
藤原 英晃	岡山大学 病院血液・腫瘍内科	研究 准教授	口腔-肺-腸内細菌叢を基軸とした骨髄移植後 免疫反応調節機序の解明と治療応用
細川 晃平	金沢大学 附属病院 血液内科	講師	再生不良性貧血における抗原特異的 CD4+T 細胞による造血抑制メカニズムの解明
南 聡	大阪大学 大学院医学系研究科	特任 助教	リソソーム損傷応答を制御することにより 動脈硬化に対する新規治療法を開発する
矢作 綾野	東京女子医科大学 医学部	助教	炎症下のトロンボポエチンによるリンパ球 機能と血小板分化調整機構の解明
横溝 貴子	東京大学 医科学研究所	特任 助教	Tet2 欠損に起因するクローン性造血および MDS 発症を司るエピゲノム制御因子の同定
吉田 優哉	九州大学 大学院薬学研究院	助教	CKD 性心不全の腸内細菌叢変容機構の解析 と細菌 X 活性を標的とした革新的経口抗体医 薬品開発
劉 孟佳	熊本大学 国際先端医学研究機構	特任 講師	心血管系の老化における組織マクロファージ の細胞起源の重要性
若江 亨祥	国立感染症研究所 ウイルス第二部	主任 研究官	内在性レトロウイルスは肝炎の増悪因子か？

※所属機関及び職位は 2024 年 12 月 6 日時点

審査講評

(一財)化学及血清療法研究所は、感染症および血液領域の研究を対象とした本年度(2024年度)の研究助成に向けた審査を行いました。昨年度から若手への支援を手厚くするために、化血研研究助成3年間に2年間に短縮して原資を若手へ移動し、化血研若手研究奨励助成枠から化血研ステップアップ研究助成を選抜し継続的に研究を支援するプログラムを新設しています。また、応募領域の明確化を図り、審査区分を、1. 細菌学(含真菌学)・寄生虫学、2. ウイルス学、3. 造血器腫瘍学・造血幹細胞・造血発生学、4. 血栓止血学・血管生物学、5. 免疫学関連(感染症及び血液領域)の5つの分野に細分化したことに伴って、選考委員を従前の14名から18名に増員しました。このことにより、これまで以上にきめ細やかな評価と審査の質の向上に努めています。審査方法については、従前通り、2段階にわたる書面審査に引き続き選考委員による対面での合議審査を実施することで優れた研究提案を厳正に選定しています。

本年度は、化血研研究助成が120件、化血研ステップアップ研究助成が10件、化血研若手研究奨励助成が168件の申請があり、化血研研究助成6件、化血研ステップアップ研究助成3件、化血研若手研究奨励助成15件が採択されました。化血研ステップアップ研究助成の採択率が30%と上昇した以外は前年度同様の競争的で厳しい採択率になりました。一方、選考にあっては、優れた学術研究実績と高い研究展開ポテンシャルを有する研究者、卓越した研究を独立して推進できる若手研究者と女性研究者の選定を主たる観点として、多様な専門性を持つ選考委員18名による書面審議と合議審査による公正で高精度の審査を実施しました。

本研究助成事業は、創設後5年が経過し、感染症・血液学の領域において広く認知されるようになりましたが、選考委員会においては、助成事業の改善に向けて、制度設計や審査方法の見直しなどに継続して取り組んでいます。今後も、優れた女性研究者と若手研究者の積極的な応募とともに、感染症、造血幹細胞・造血器腫瘍学のみならず、止血血栓や感染免疫学分野の独創性・学術性の高い研究申請を期待しています。また、本研究助成事業を通じて、世界の感染症・血液研究の発展の一翼を担う先導的な次世代研究者の育成に資することができればと思っております。

選考委員長：東北大学大学院医学系研究科 教授 赤池孝章